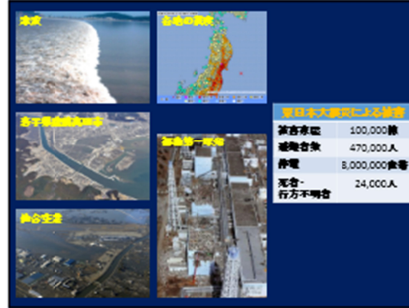


モバイル型感染症サーベイランスシステムの構築

厚生労働科学研究費補助金
地球規模保健課題推進研究事業
千田勝一, 中村安秀, 松石豊次郎, 岩田欣介,
江原伯隆, 瀧向 透, 石川 健



震災後の医療支援の経過

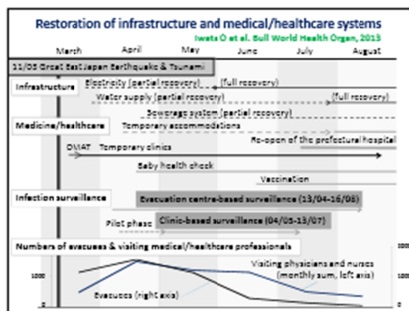
- 3月11日～22日
災害派遣医療チーム (DMAT), 約340チーム, 1,500人が活動。津波による溺死者が多く、急性期のニーズが少なかった。
- 3月14日～
全国から医療救護班やIMATが展開
- 5月 9日～翌年3月末
日本小児科学会から小児科医派遣

避難所数と避難者数



	全国	原子
避難所数		
1週	2,182	399
1か月	2,344	376
避難者数		
3日	470,000	54,000
1か月	150,000	45,000

ライフラインが復旧しないなか、避難所では劣悪な環境における生活が長期化し、感染症の蔓延、慢性疾患の悪化、うつ発症などが懸念された。

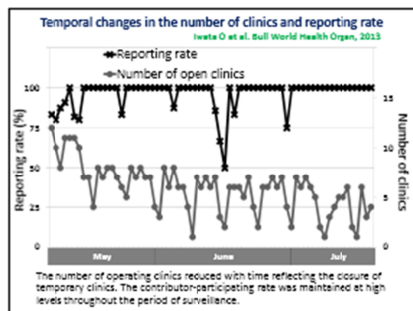
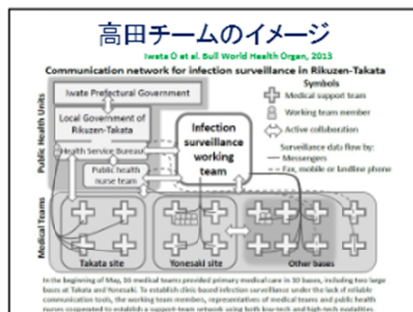
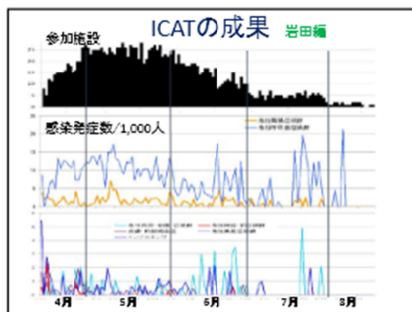


感染症サーベイランス

- 岩手県**
- いわて感染制御支援チーム (ICAT) が携帯端末^{*)}を活用
 - 高田・感染症サーベイランスチームが診療所情報を収集
- 宮城県**
- 避難所における感染症リスク対応チームが巡回指導のちに「避難所感染症サーベイランスシステム (SS)」^{*)}と携帯端末^{*)}の活用
- 福島県**
- 「避難所感染症SS」を一部の保健所に導入
 - ^{*)} 防衛医科大学校が開発^{*)} 感染研情報センターが開発

岩手県における感染症サーベイランス

	ICAT	高田チーム
期間	4月13日～8月16日	4月23日～7月13日
対象	沿岸避難所 (max 28)	高田医療団診療所 (16)
方法	タブレット型通信端末	調査票 (14), Fax/Tel (2)
データ	急性胃腸症候群 急性呼吸器症候群 急性発疹・結核症候群 急性神経・筋症候群 皮膚・軟部組織感染症 急性食中毒候群 インフルエンザ	消化器症状 呼吸器症状 皮膚粘膜症状 神経皮膚症状 高熱・全身状態不良 抗原検査陽性の感染症 その他の感染症





論点1

• 感染症サーベイランスの対象は？

	避難所	診療所
避難所情報	◎	○
在宅避難者・非避難者情報	×	○
医療従事者への負担	◎	△
通信手段(携帯電話復旧)	◎	○
診断の正確さ	×	◎
定点調査との一貫性	×	◎
追跡可能性(開設・閉鎖スパン)	△	○

論点2

• 非常時の運用は？

感染症サーベイランスは、小児科定点、インフルエンザ定点の感染症発生動向調査票に作りかえることは容易である。

感染症発生動向調査は現在、用紙に記載してFaxで送信したものを再度入力して集計しており、この手間が省ける。

論点3

・国内・国外における感染症サーベイランスの項目は？

